

ROTARY CLUB OF

**KANAZAWA-NORTH**



**金沢北ロータリークラブ**

例会日：木曜日 12:30～13:30

例会場：卯辰山・ホワイトハウス

事務局：金沢市尾山町9-13・金沢商工会議所

TEL <0762> 63-1151

会長：岡田 林太郎 幹事：釣見 栄一

情報委員長：清水 忠

1978・4月6日

第112号



**働ける事のよろこび**

石川県身体障害者職業訓練校校長  
砺波 六三郎氏

現在、わが国に於いて 222万人という多くの方が身体障害者としての手帳を有している。この内石川県では2万6千の人がその対象者である。その中には自宅にいる人、就職希望の人、又障害の為転職を余儀無くされた方など社会生活が満足に出来ないでお困りの方が多数いられるのが実状である。

労働省はこれら重度な障害者の為に技能や能力に合った知識を与えて就職、自力出来るよう全国に職業訓練校を置いている。本校は野々市町末松に、白山を眺め、石川平野を一望出来る所に国立として全国で11番目に開校された。

この学校では主に養成訓練を柱に置き、テレビの組み立て、修理の電子機器科、婦人・子供服の洋裁科、コロタイプ等の印刷科、又地場産業である九谷の絵付も拾得出来る科をも設けている。各科20名を定員として、1年が訓練期間である。

障害者ゆえに暗くなりがちな生活、それを乗り越え再出発に向けて努力するその姿に拍手と声援を送ってやまない。

—金沢北RC例会講話より— (文責 米沢修一)

## 私の職業奉仕

二木 正樹

私の家業であるしみ落しは、今から250年前、時の將軍家継の時代、享保14年に京都で始めて開業され、当時、公家の装束のしみを落したのが最初であると聞いております。金沢では、私の父が京都で修業をして、明治の末期、初めて開業しました。当時、紺屋（染物屋）でミスをすれば、損害賠償となるものが、父の開業でその欠点を補正し、無事に納品が出来、大変喜ばれ珍重がられたわけです。ありとあらゆる「しみ」と対決し、元通りの地色や模様に戻す、陰の伝統産業の推進者なのです。私共の職業に対しての文献は、ほとんどありませんが、永い年月を経て工夫、改善された技術が受け継がれて、私共の腕の中にあると言っても良いでしょう。

例会の時、ビジターの方々から、変わった職業ですね。何をされるんですか。とよく聞かれます。説明をしますと、そんなお仕事とは知りませんでした。仲々大変な技術ですね。と言われます。又よく衣類のお医者さんですねと言われます。人間ならば、ここが痛い、そこが苦しい、と言ってくれますが、しみや、汚れは何も言ってくれません。多年の経験と「カン」が大きな要素であるのです。失敗は絶対に許されないむずかしさがあると同時に立派に出来上がった時の喜しさも又、ひとしおです。

昨今はいろいろな化繊の生地が流行しています。その種類が多く、染料もさまざま、それにつ



いた「しみ」も種々雑多であり時代が進むにつれて、私共の研究努力が更に要求されるわけです。この頃の若い人は活発な方が多いですね。初めて着た中振袖のブンの首まで泥ハネをあげたり万年筆のインクが、胸のポケットに流れて、うえににじみ出てくる迄わからない様な仕事がよくあります。

高級なお召物ですから、もっと可愛がってやりましょう。焼ゴテで焦げた物も、きつね色程度なら直すことも出来ます。掛軸のしみ抜きも苦勞する仕事の一つです……。

以前は衣類の虫干しが年中行事の一つでしたが、最近ほとんど見かけなくなった様ですが、是非励行していただき、しみやカビを発見し、早速手入をしてほしいものです。

私共の仕事は大きく二つに大別されます。皆様方が御召しになった衣類等のしみ抜き、もう一つはあらゆる染物の最終工程を担当し何等欠点のない製品に補正することです。私は、今はなき人間国宝の木村雨山先生の染められた皇后陛下の色紋付、宮家の妃殿下の訪問着、又最近では会員の皆さんと一緒に見学させていただいた水野博先生的美智子妃殿下の訪問着等々を手掛けさせていただいた光栄と感激は、終生忘れる事が出来ません。

と同時に染物関係の各業種の中で一番最初に国家検定が実施された私共の染色補正業を、国が良い技術者の養生に力を入れておられることも得がたいことです。

どんな「しみ」でもきれいに補正し、お客様に喜んでいただくために努力することが、職業奉仕につながると日夜いそしんでいる次第です。

## インターシティ・ゼネラル・フォーラムに参加して

——都市連合全般討論会——

飯野 健志

北陸路の春未だ浅き、3月12日(日)、加賀ロータリークラブがホストクラブとなり、片山津温泉ホテルながやまに於て、1977～1978年の、石川県第一分区のI.C.G.F.が、各クラブ役員及び新会員と特別参加者としての直前、パスト、現ガバナー、地区幹事、会計長、第二分区代理、リーダー、地区資金委員長らの諸氏の御出席の下に、折からの寒風にもめげず、盛大に開催されました。

この会議の意義や重要性について、全く未知であった小生ら新会員は、当初は、クラブ役員よりの御招請にも、欠席の御返事を致し、今思い返せば、冷汗三斗、誠に恥かしい心境です。今回のフォーラムの要項は、そのテーマとして、

1. 国際奉仕について    a) ロータリー財団協力の効果ある方法  
                              b) マッチドプログラムの進め方について
2. ロータリー情報について    a) 新入会員教育（同化）の効果ある方法  
                              b) ロータリー情報源と会員への伝達方法

の二点が挙げられ、全体会での、ガバナー、カウンセラー、リーダーの諸氏の講演や意見発表の後出席会員全員が、12のチームに分れて、夫々の和室会場へ移動し、各テーブル毎に、質疑応答を含むバスセッションを行い、各テーブルのリーダーによりまとめられた意見や報告に対して、全体会で再び、リーダー、アドバイザー、カウンセラーの皆さんにより所感や講評が行われる形式で、ゼネラルフォーラムの目的や内容について、懇切な御説明を戴いた後、私もその一員として、バスセッションNo.10に参加致しました。勿論、私にとっては、耳新しいロータリー独特の役職用語や、会議用語が、続々と発言されて、かなり戸惑うこともありましたが、私共のテーブルのリーダーは、大へんざっくばらんに、暖く素朴な調子で、色々語りかけて下さいましたので、始めは稍よそよそしい空気が漂っていた部屋のムードも忽ち、膝打ちわっての友情的、アットホームな談論に終始することが出来ました。このような設営のアイデアを案出されたホストクラブの各位の並々ならぬ御苦心の成果として、高く評価され、感謝と拍手を贈られました。R財団協力の効果ある方法のテーマについては、単なる寄付ではないことを特に新会員に徹底させることが強調され、私には決して馴染み深くなかった、ポール・ハリスの名も、そのフェローの称号と共に、決定的に脳裡に焼きついてしまいました。加賀RCや能美RCの積金制度によるフェロー、準フェローの増加など、驚くばかりの熱意をひしひしと感じたものです。マッチドプログラムの進め方については、私も金沢市の姉妹都市提携の仕事をさせて頂いており、両クラブの相互理解と国際親善のために、もっと強力に提携活動を進めてゆくべきだと思いますが、日本人独特の外国語のハンディキャップのためにほん訳などで、ガバナー事務所を煩わすことなく、幸い当クラブでは、外国語に堪能な会員が多くいられますので、Yorba Linda とのより深い交歓活動を希んでいます。新入会員教育の効果ある方法については、私の入会時の、修練委員諸氏や柴田先生の慈父の如き、御教導により、R精神の真髓を御懇切に、噛んでふくめるように御説明頂きまして、今更ながら、当クラブの各委員会の充実、団結ぶりを、まのあたりに見たような思いで、当クラブに入会させて頂いた喜びを、再び痛感しておる次第です。欠席の監視についても、出席により反省と和を求めるなど、色々の意見が出ておりましたが、やはり入会直道の教育、R哲学の尊厳性の徹底により、充分その効果が上るものと思われれます。然し乍ら、何としてもロータリアンの意識の深化には、3年、5年、10年を必要とすることは論を俟たないので、特に有効な炉辺会合や夜間例会を利用することを推奨されておりました。何れにせよ、色々知らない方との御面識を頂き、人生の中を広げる横社会に連ることは、単なる出席競走のための例会でなく、人生の大きな喜びの、週間リラクセーションパルスとなり、人生の反省、啓発のための修養日となることは、疑いもない現実であります。今回のI.C.G.F.に参加させて頂きました役員諸氏の御配慮を深謝致しますと共に、次期I.C.G.F.(小松RC)にも是非参加させて頂きたいと願ひまして、私の拙い御報告と所感に換えさせて頂きます。

